

みなさん、こんにちは。
暖かく気持ちのよいばかりか陽気とともに、新年度がスタートしました。一年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

新しい学校にドキドキワクワク緊張の毎日ですね。
進級された皆さん、新年度を向かって、新しく始めてみたいことや、行ってみたいところはありますか？
春の県立文化施設には、楽しいイベントがたくさんありますので、お友達を誘って遊びに行きませんか？

県立博物館

「武田二十四将」

「信玄を支えた家臣たちの姿」



一月にスタートした大河ドラマ「真田丸」は、一五八二(天正十)年の武田氏滅亡から物語が始まりました。武田勝頼に岩櫃城(群馬県)へ来ることを進言した真田昌幸をはじめ、武田氏家臣の様々な動向が演じられ、注目を集めました。
「戦国大名」というと、織田信長、上杉謙信など、著名な人物が浮かび上がると思いますが、甲斐の武田信玄も全国有数の戦国大名として、そして武田氏を大きく発展させた偉人として、今でも県内外の人々から親しまれています。



武田二十四将図 (当館蔵)

その一方で、彼らの下で働いていた家臣達のことは、大名に比べてあまりよく知られていません。

しかし、戦国大名の発展には優秀な家臣の存在なくしては、実現しえないもので、武田信玄の場合にも、数多くの優秀な家臣がおり、後世「武田二十四将」として語り継がれることになりました。

本展では、こうした家臣たちゆかりの古文書や肖像、武器などの関連資料をおとして、武田氏の家臣として活躍した彼らの実像や足跡を紹介いたします。

展示では、山本管助に関する新発見の資料や、ドラマで注目を集める真田氏に関する資料なども紹介する予定です。

また、展示期間中には、子ども向けの鎧の試着体験や、本展で紹介する武将の人氣投票「TKD24」総選挙等、親子揃って楽しめる関連イベント等を開催し、皆様をお待ちしております。

展覧会は、五月二十三日(月曜日)まで開催しています。



「山本管助」の名を記した武田晴信(信玄)の書状 (当館蔵)

県立美術館

「ルネサンスの巨匠」

「ミケランジェロ展」



ミケランジェロ・ブオナローティは、今から五〇〇年くらい前にイタリアで活躍し、ローマやフィレンツェに、力強く壮大な芸術作品を数々遺して、「神様のような」芸術家と呼ばれました。



《システーナ礼拝堂天井画〈クマエの巫女〉のための頭部習作》

本人は自分のことを彫刻家と考へ、大理石の塊から人物の姿などを彫り出すような仕事を好んでいました。彼の才能を見込んだローマ教皇や権力者たちが、絵画の制作や建築の造営を次々と依頼してきました。

彼らの期待に振り回されながらも、ミケランジェロはローマのサン・ピエトロ大聖堂の天井画や壁画に聖書の世界を描き、礼拝堂や図書館などの建物や広場全体を設計するなど、世界の宝とも言える作品を数多く完成させました。

ミケランジェロは彫刻家であり、画家であり、建築家であり、西洋の芸術のあらゆる分野に影響を与えたと讃えられています。



《ラウレンツィアーナ図書館、閲覧室から玄関室への扉口案》

この展覧会では、ミケランジェロの多彩で偉大な芸術がどのように創られてきたのかを、彼の子孫が護り嗣いできたデッサンや設計図面、手紙などを通して紹介いたします。

県立考古博物館

「春季企画展」

『お肌のキレイな縄文土器』

『一の沢遺跡と酒呑場遺跡』



みなさんは「縄文土器」というとどんなことを思い浮かべますか？

とても古い時代のものということ、縄目の文様でかざられているということ、土で出来ているということ……まずはそんなことを想像するのはないでしょうか。

実は、みなさんの住んでいる山梨県は縄文時代の遺跡が豊富で、たくさん土器が見つかっていることから「縄文王国」とも呼ばれています。

見つかった縄文土器は縄目の文様だけでなく、人や動物、水の流れをイメージさせる渦巻など、さまざまな文様でかざられており、その美しさやおもしろさは見る人をおどろかせています。



重要文化財 顔面把手付土器・顔面部一の沢遺跡出土 縄文時代中期

そこで、この春の企画展では、そんな見た目の美しさをさらにクローズアップして、山梨県の縄文土器ならではの「お肌のキレイさ」に注目します。

同じように土で出来ていても、土の採れた場所や磨き方、焼き方などによって土器の表面の質感はまったく変わってきます。



重要文化財 深鉢形土器 酒呑場遺跡出土 縄文時代中期

人間の肌と同じように土器の土肌にも「すべすべ」や「ざらざら」の違いがあり、山梨県の縄文土器はその「すべすべ感」も魅力のひとつなのです。

今回は特に「美肌」の土器が多い「一の沢遺跡(笛吹市)」と「酒呑場遺跡(北杜市)」の土器を中心に紹介いたします。

開催期間は、四月二十三日(土曜日)から六月十二日(日曜日)まで。

県立文学館

「移動文学館の紹介」



文学館では、児童・生徒のみなさんにもっと文学館について知ってもらい、文学館を利用してもらえらるよう、展示の内容をわかりやすくコンパクトにまとめた「移動文学館」(アウトリーチ)セットの貸し出しを行っています。

みなさんは、学校の図書館などで、もう見たことがありますか。

現在、貸出セットは三種類ありますので紹介いたします。

★セット1 「石川啄木」

- ① 啄木等身大パネル
- ② 生涯と作品を紹介したパネル
- ③ 短歌パネルと投票用シール



たくぼくとうしんだい 啄木等身大パネル

★セット2 飯田蛇笏・龍太の「ちまちま人形」

- ① 蛇笏・龍太のちまちま人形
- ② 楽しいエピソードを学べるパネル
- ③ 俳句の世界を思わせる写真と解説がついたパネル



★セット3 村岡花子と『赤毛のアン』の世界

- ① 赤毛のアン イラストパネル
- ② さわって読める村岡花子大型絵本
- ③ アンのお部屋に置いてある小物をイメージしたドレスと水さし



あかげ 赤毛のアン イラストパネル

これらのセットは学校の希望でいつでも貸し出しできます。学校でぜひ、見てくださいね。

山梨近代人物館

「第三回展示 近代山梨を築いた人々」



二年目を迎えた「山梨近代人物館」山梨県ゆかりの人物や県政の歴史を紹介して多くの皆さんに親しんでいただいています。

第三回展示は「近代山梨を築いた人々」がテーマです。

江戸時代から明治時代へと日本が大きく変化していく中で、深く関わった人々を紹介します。

当時の県知事である「藤村紫朗」は、どんなことを考えながら山梨県を創ろうとしたのでしょうか？

山梨県で最初の新聞を作った「内藤伝右衛門」や女性の学習機会を考え、女子教育のはじまりとなった「内藤満寿」などなど。

山梨近代人物館には、知らないことや知りたいことがたくさんあつまっています。

また、館内には、プロジェクトジョン マッピング「笹子隧道物語」やタッチパネルで答えるクイズなどもあります。楽しいクイズで、たくさん的人物と出会うことができます。



子ども向けコーナーもあるよ！遊びに来てね！！

若尾逸平

「笹子隧道物語」と「子ども向けクイズ」

山梨近代人物館は、開館時間中は、いつでも無料で観覧できます。

また、団体予約も受け付けています。詳しくは、電話でお問い合わせください。

電話は、〇五五・二二一・〇九八八です。

県立科学館

「ゴールデン・サイエンスショー」開催



ゴールデンウィークの期間中、特別プログラムとして「ゴールデン・サイエンスショー」を多目的ホールにて一日三回開催します。

普段のサイエンスショーをバージョンアップした、ゴールデンウィークにしか見られない楽しい科学実験ショーを体験してみませんか。

ショータイトルは、「音つとビックリ！音のショー」

「クイズサイエンスショー」このあと、どうなる？「パート2」

「ロケットまつり」などです。新しい実験の披露もあります。



サイエンスショー (昨年の実験の様子)

開催期間は、四月二十九日(金曜日)・祝日)から五月五日(木曜日・祝日)まで。開始時間は、午前十一時から、午後一時三十分からと四時から、各回とも三十分から四十五分間です。

事前の申し込みは必要ありませんので、直接多目的ホールにお越しください。

多くの方のご来館をお待ちしています。

詳しくは、県立科学館ホームページをご覧ください。

電話は、〇五五・二五四・八一五一です。

県立図書館

資料紹介展示

「子どもにすめたい本 2016」



皆さんは、一年間にどのくらいの本が生まれるかを知っていますか？『出版年鑑』によると、毎年約八万冊の本が新しく出版されています。

このたくさんの中からは、県内の図書館司書が集まって、面白い、役に立つ、感動するなど、様々な理由で皆さんにぜひ読んでもらいたい本を、百十冊選びました。

資料紹介展示「子どもにすめたい本 2016」では、これらの本を集めて紹介します。選ばれた本を、実際に手に取って読んでみませんか？

授業で活用できる本、読み聞かせに使える本などをお探しの先生方も、ぜひお越しください。

観覧料は無料です。



さくねんど 昨年度の様子

開催期間は、四月二十三日(土曜日)から五月十三日(金曜日)までです。

四月二十五日(月曜日)、五月二日(月曜日)、五月九日(月曜日)はお休みします。

先生方へ

「博学連携のお知らせ」

県立美術館、博物館、考古博物館(埋蔵文化財センター)、文学館、科学館、

県立美術館、博物館、考古博物館(埋蔵文化財センター)、文学館、科学館、教育プログラムの開設や出前授業、貸出教材など各館の特色を生かした教育普及事業を実施しています。

詳細は各館担当者までお気軽にお問い合わせ下さい。

〈問い合わせ先〉

県立美術館 学芸課普及担当 電話 〇五五・二二八・三二五八

県立博物館 企画交流課 電話 〇五五・二六二・二二七八

県立考古博物館 学芸課 電話 〇五五・二六六・三八八一

埋蔵文化財センター 電話 〇五五・二六六・三〇一六

県立文学館 学芸課教育普及担当 電話 〇五五・二三三・八〇八〇

県立科学館 電話 〇五五・二五四・八一五一

第一号を発行した平成二十五年は、本県で国民文化祭の開催や富士山世界遺産登録があり、これを契機に児童・生徒の文化や、芸術への関心が年々高まってきていると思われます。これからも県立文化施設の情報を提供していきますので、学校現場におかれましては、各施設を積極的に活用していただけます。

県立美術館、博物館、考古博物館、文学館では、小・高・特別支援学校の児童・生徒は、常設展・特別(企画)展を無料で観覧できます。